

私 の 工 夫

主体的に学び続ける児童の育成を目指して

岡山市立陵南小学校

教諭 岸本 道子



1 はじめに

本校の教育目標は「豊かな人生を共に切り拓いていく凜とした陵南つ子」である。これを具現化するため、本校の研究テーマを「主体的に学び続ける児童の育成」とし、児童が主体的・対話的で深い学びの実現ができるように職員全体で授業改善を図ってきた。私は英語専科として、外国語科における深い学びを目指し研究を進めた。学びをより確かなものにしたたり、学びを活用した新しい学びへとつなげたりしていくために、授業改善に取り組んでいる。昨年度、岡山市の英語教育推進指定校事業で授業を公開させていただく機会に

恵まれた。授業を考えるにあたって、岡山市教育委員会指導課坪井

由佳先生、佐藤泰輔先生に一学期

よりご指導いただき、児童が主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりに取り組んだ。

2 私の実践

昨年度、英語教育推進指定校事業で授業を公開した実践を紹介したい。

第六学年外国語

NEW HORIZON Elementary6

Unit6

Unit6 Let's think about our

food.



ペアでの紹介

単元の目標を「自分で考えたオリジナルカレーともう一品について知ってもらったり、友達のアリジナルカレーをよく知ったりするために、使用する食材や産地、栄養素などの具体的な情報を聞き取り、話したりすることができるとした。

本単元の目標を達成するために、次のような手立てを取り入れた。

①言語活動の設定

この単元では、聞くこと、話すこと「発表」の二領域の力を高める



グランプリの具たくさんカツカレー

るために、単元のゴールの活動を「陵南カレーグランプリ」とした。栄養教諭に協力してもらい、「陵南カレーグランプリ」で一位に選ばれたカレーは三期の給食の献立に採用することにした。この「陵南小学校のみんなが喜ぶカレーを提案したい！」という目的意識が、表現の広がりや第一時から第八時までの主体的な学習への参加につながった。

第五時で個人が考えたオリジナルカレーを、第六時ではペアで紹介し合い、第七時ではまずグルー

プで紹介し、そして全体で交流すること、自信をもって第七時の「陵南カレリーグランプリ」に臨むことができた。コミュニケーションを行う目的・場面・状況の設定の大切さを改めて感じた。



中間評価の話し合い

② 中間評価の活用
第六時では、オリジナルカレーについてペアで交流するたびに、中間評価の場を設定した。「ペア活動↓中間評価」を四回繰り返した。友達の良いと思ったところ

や、うまく言えなかったところを学級みんなで共有し、その後の活動に生かすことができていた。うまく言えなかったところを共有する際に、既習の表現での言い換えを学級全体で考えることで、児童の思考を促すことができた。また、カレーの紹介に必要な表現を共有しないまま一回目のペア活動に取り組ませた。「どうやって言うんだっけ?」「言い方を忘れたから練習したい!」と児童からのつぶやきが出たところで一度目の中間評価を取り入れ、本単元で狙っている表現の練習を行うことで、目的意識をもって練習を行うことができた。二〜四回目の中間評価についても、さらに自分のカレーの良さが伝わるにはどうしたら良いかと目的意識をもって取り組めた。中間評価に臨むことによって学びが深まった。

③ ICT機器の活用

クロームブックのジャムボード



カレーに入れたい食材の紹介

を用いた。一枚目のシートにはカレーの鍋。二枚目以降のシートには栄養素のグループごとに食材を貼りつけた。カレーに入れたい食材を二枚目以降のシートから一枚目のカレーの鍋の周りに貼りつけながら考えることで、自分のカレーのイメージをもつことができた。外国語に苦手意識をもっている児童も意欲的に取り組むことができたため、よい手立てだったと思う。

第六時にペアで交流する際にカレーの鍋のシートを見せながら友達に伝えることで、視覚的にもどんなカレーを入れたい食材の紹介

なカレーなのか分かりやすく伝えることができた。また、中間評価後に追加したいことを簡単に付け加えることができるため、次の活動にすぐに生かすことができた。オリジナルカレーの良さをさらに詳しく伝えるための手立てになっていた。今後もICT機器を上手に活用していきたいと思う。

3 おわりに

岡山市の英語教育推進指定校事業を受けさせていただいたことは私にとって大きな経験になった。指導課の先生方や、校内の先生方にご指導いただき機会を数多くいただくことができ、自身の授業を見直し、授業力向上につながったと思う。この学びを生かして、今後も子どもたちの学びを支えていきたい。